

## 学長室から

竹屋 元裕

## 医療人の働き方改革と医療人育成

ご存じのように、働き方改革を推進するために労働基準法等の労働関係の法律が改正され、いわゆる「働き方改革関連法」として2019年4月1日から順次施行されている。これまでに猶予措置がとられていた医師の時間外労働についても、来年4月から規制の対象となる。これに伴い医師の負担軽減のため、効率的なタスクシフト/シェアを進める必要性が高まってきている。

去る11月23日(木)に、「医療機関における働き方改革と医療人育成」をテーマとした第14回熊本県医療人育成総合会議(肥後医育振興会主催)に出席したのでその概要をご報告したい。会議では医学、薬学、看護、臨床工学の各領域から計6人の演者が登壇し、医師のタスクシフトと各専門医療職によるタスクシェアの現状が報告され、さらにタスクシフト/シェアを視野に入れた新しい医療人教育の在り方について討論がなされた。本学からは看護領域を代表して、キャリア教育研修センターの飯山有紀准教授が登壇し、チーム医療体制の必要性や特定行為研修後に看護師が実施可能となる相対的医行為について説明があった。

最後に行われた総合討論では、医・薬・看護・臨床工学・診療放射線の各分野から合わせて10人の学生・大学院生・研修生が登壇し、それぞれの立場で率直な意見が交わされた。本学からはキャリア教育研修

センター・認知症看護分野研修生の森眞悟さんと白井雪乃さんが参加し、現役の看護師として看護学生を指導する立場と医師のタスクをシェアする立場の両面から貴重な意見を聴かせてくれた。

タスクシフト/シェアは始まったばかりであり、各医療機関ではまだ手探りの状態にあるのが現状である。タスクシフト/シェアを推進するためには、まず他職種の理解が重要であり、そのためには医療人育成における多職種連携教育の充実が必要である。本学での「チーム医療演習」を主体とした学科横断型教育が一層重要となることを実感した。



看護領域を代表し、「看護の質を担保し、後輩育成を支えるリカレント教育」と題して講演する飯山准教授。講演後、「特定行為を組み込んだ認定看護師教育は、医師の働き方改革を支え、医療とケアの質を担保することを確信しました」と話していました(NL編集部)



各分野の学生・大学院生・研修生10人から率直な意見が出た「総合討論」。壇上中央の2人が森さんと白井さん

# 地区活動重視への回帰呼びかけ

## 地域看護研究会 コロナ対応から平常移行へ

「新型コロナウイルス感染症対応からの再出発～平常活動への移行期における保健現場の現状と課題」をテーマとした令和5年度「地域看護研究会」が11月11日（土）、本学キャンパステラスで開催され、保健所や市町村に従事する保健師38人が参加しました。

この日は、保健師の人材育成に関する様々な研究班に所属している国際医療福祉大学大学院の嶋津多恵子教授（公衆衛生看護学領域）が講師を務めました。嶋津教授は、コロナ禍で全国の保健師が疲弊した現状を説明。5類移行後、現場で保健事業再開への不安や躊躇の声が多く聞かれる中、「コロナ禍を経験したからこそ、保健師活動の原点である地域に足を運び、地域特性に応じた地区活動を重視することに回帰する必要がある」という強いメッセージを発していました。

参加者からは「現場の困難感や対策について学べたことで、より一層地域活動における保健師の

役割の理解につなげることができた」「聞いている間に頭の中で色々なアイデアがわいてくるような研修でした」など、前向きな感想が聞かれました。（看護学科 岡順子）



保健師の皆さんを前に講演する国際医療福祉大学大学院の嶋津教授

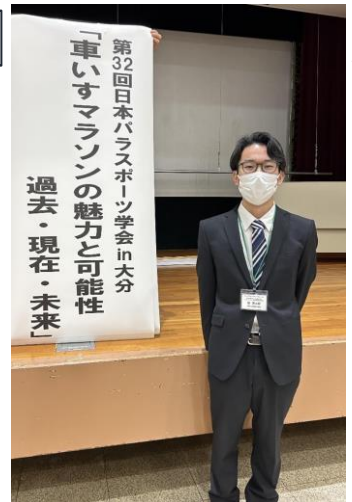
## 脇さん（理学療法学専攻4年）が口述発表

日本パラスポーツ学会

「車いすマラソンの魅力と可能性 過去・現在・未来」をテーマとした第32回日本パラスポーツ学会が11月17日（金）、18日（土）、大分市の大分県庁正庁ホールで開催され、リハビリテーション学科理学療法学専攻4年の脇蓮太郎さんが口述発表を行いました。

脇さんは2日目の一般演題発表に登壇。「競技用車いすのダッシュ動作におけるピッチ走法からストライド走法に移る最適なスイッチングポイントの検討」と題して、日ごろ取り組んでいる研究の成果を披露しました。発表後は質問した先生方の元に行き、多くのアドバイスをもらっていました。パラスポーツの研究者たちから多くの講評やアドバイスをもらいながら次のステップへと踏み出しつつある脇さんの姿を見て、今後の飛躍が楽しみとなりました。

（リハビリテーション学科理学療法学専攻 久保下亮）



脇さん  
無事に発表を終え、ほっとした様子の脇さん



## 血小板が持つ肝再生機能を追究

医学検査学科 登尾 一平講師

図書館と学術研究会議共催のサイエンスカフェが11月28日（火）、キャンパステラスで開催され、医学検査学科の登尾一平講師が「血小板が肝細胞へ及ぼす影響について～血小板膜糖タンパク質を介した肝細胞癌増殖機構の解析」と題して講演しました、大学院生や教職員18人が参加。

登尾講師は血小板のもつ様々な機能の中でも、肝再生について研究。これまでの研究結果から、血小板の糖タンパク質の変化が肝細胞の増殖に影響を及ぼす可能性を見出しています。

今後について登尾講師は「血小板が肝細胞に及ぼす影響について詳細に解析を進め、将来的に肝再生療法などに応用できれば」と話していました。

（入試・広報課）



血小板の肝再生機能について研究の成果を披露する登尾講師



# 竹屋学長に熊本大「卒業生表彰」

令和5年度熊本大学卒業生表彰式が11月4日（土）、熊本大学本部棟大会議室（熊本市中央区）で行われ、熊杏会（医学部医学科同窓会）の推薦を受けた本学の竹屋元裕学長が表彰されました。

熊本大学卒業生表彰式は、同大学の卒業生で大学の発展に尽力した人の功績を称えるため、平成24年に創設。今回で12回目になります。各学部同窓会より表彰を受けた10人の受賞者が小川久雄熊本大学学長から深い敬意を込めた祝辞を受けました。

竹屋学長は「熊本大学で医学部長や理事・副学長を歴任したことに加え、熊本保健科学大学学長としての貢献が評価されたもので、光栄に思います」と話しました。（入試・広報課）



表彰式後関係者と記念撮影する竹屋学長（前列左から3人目）。右隣は熊本大学の小川学長

## インフォメーション

### 週間行事予定（12月5日～11日）

12 / 7（木）

防災訓練